

# 美濃の大絵馬

## —— 所在調査報告 ——

佐野正隆・二村 智

### はじめに

岐阜県に残る絵馬についての調査研究はほとんど手がつけられていなかったといえる。展覧会では古く昭和15年に皇紀2,600年奉祝記念事業として高山市公会堂において飛騨連合神職会が主催した「隨身像・扁額・絵馬展覧会」があげられる。絵馬だけではなくたものの飛騨1市3郡から約50点の絵馬が出品された。これ以後県下ではこれほど広範囲から資料を収集展示した例はなかった。戦後になると県や市町村で文化財の一つに絵馬が加えられ、指定のものについては調査がされるようになった。しかしながらその数は仏像など他の文化財に比べるとごくわずかであり、大半のものは埋もれたものとして未調査のまま放置されてきたのである。こうしたおり当館では昭和56年4月24日から5月31日にかけて特別展「美濃の絵馬」を開催した。それは絵馬が絵画のみでなく、歴史・民俗資料としても貴重な文化財であることを広く認識してもらうことをねらいの一つにした企画であった。幸いこの準備に当たり美濃地方の絵馬をできるだけ多く記録にとどめることができた。

この調査では算額以外の文字額を除く、いわゆる美術的色彩の強い大絵馬を中心に、民間信仰的な小絵馬もその対象とした。短期間で実施せねばならなかったことから市町村教育委員会に依頼し、管内の絵馬についてその所在を報告していただいた。その結果美濃地方80市町村のうち53市町村から回答を得た。このデータを基礎に、明治10年の美濃国各郡神社什物寄付物取調帳・県指定文化財調査報告書・市町村発行の文化財図録、及び県神社庁からの資料などをあわせて調査社寺を決定した。実際の調査では比較的保存状態の良いものを中心に数量的にもできるだけ多くの絵馬を記録するようにした。こうして別表に記した社寺においてその所在を確認したが、これによって主要なものは一応把握できたと考えている。しかしながら絵馬に関する諸問題として、地域とのかかわり、時代的特色、画家の実態及び系譜、民間信仰の様相などは十分に解明するまでには至らなかった。これらについては今後の課題としたい。

ここでは記録したものから大絵馬を選び、その所在調査報告を行うものである。記述に当たっては特別展でとった分類にしたがい、画題別にまとめてみた。

なお、調査に御協力いただいた各社寺の関係者の方々をはじめ、各市町村教育委員会、県神社庁、及び、絵馬の画題等に関し御教示を賜った国立歴史民俗博物館助教授岩井宏美先生、岐阜県立図書館司書敷島はるみ氏に厚く御礼申し上げる。

### 大絵馬の分布

美濃の大絵馬は京都・大阪・奈良の関西や埼玉・群馬・栃木の関東といった絵馬の中心地に比べると種類・量とも多いとはいいがたい。近世期、美濃は徳川御三家の一つ尾張藩の北に隣接していることなどから幕府の政策によって小藩に分割統治された。更に、西南濃は木曾・長良・揖斐の3河川が形成する、洪水多発地域の輪中をかかえていた。したがって他国に比べて経済的基盤が大きい方ではなかった。これが上記のことがらと関係あるように考えられる。ともあれ今回の調査では、

## 絵馬の所在する社寺

岐阜市	加納天満神社	関市	小瀬八幡神社	八百津町	久田見薬師堂
〃	願成寺	美濃市	洲原神社	〃	丸根山弘法堂
各務原市	手力雄神社	〃	鹿苑寺	川辺町	大部古天神社
養老町	押越八幡神社	美並村	星宮神社	可児町	久々利八幡神社
〃	船付八幡神社	八幡町	小野八幡神社	御嵩町	顔戸八幡神社
〃	愛宕神社	〃	戒仏薬師堂	〃	願興寺
〃	田代神社	〃	楊柳寺	瑞浪市	宝珠寺
上石津町	湯葉神社	〃	慈恩寺	〃	桜堂薬師
垂井町	南宮神社	〃	岸剣神社	恵那市	武並神社
〃	菩提寺	〃	那比新宮神社	岩村町	武並神社
大垣市	国分寺	〃	小那比熊野神社	〃	八幡神社
〃	久瀬川神社	大和村	上古道白山神社	〃	桜稻荷神社
〃	明星輪寺	〃	厚谷薬師堂	明智町	八王子神社
墨俣町	墨俣神社	〃	明建神社	福岡町	下野庚申堂
〃	八幡神社	白鳥町	白山中居神社	〃	榊山神社
久瀬村	小津白山神社	洞戸村	高賀神社	坂下町	蔵田寺
伊自良村	甘南美寺	武儀町	日竜峯寺	川上村	星宮神社
関市	小野庚申堂	七宗町	神淵神社	加子母村	番田八幡神社
〃	八神不動堂	〃	観音寺	〃	大杉地藏堂

輪中地域に絵馬をわずかしか確認できなかった。

主な大絵馬の所在地は別表に示したとおりだが、なかでも数量的に多く、かつ美術的にすぐれたものが集中しているのは岩村・明智、郡上八幡、養老の3地域であろう。

岩村は松平・丹羽の城下町として栄えた所である。藩校として全国的にも最古の部類に属す知新館を設立したり、昌平覺の教授佐藤一斎を輩出するなど教育・文化にも意が注がれていた。こうした土地柄を反映して、城主の祈願所としての八幡神社や城下の氏神的性格を持つ武並神社などには城主や町人が絵馬を奉納した。それらは狩野洞琳・狩野洞春・上野元満・加藤泰跡など専門絵師の手になるものが多い。なかには文化5年(1808)銘のある牽馬図〔No21・22〕のように一対をなし、城主が同時に一面ずつ両社へ奉納したものもある。画題は繫馬図・牽馬図と日の出鶴図が比較的多い。町の文化財に指定されているものが17点あり、それらを含めて大部分は現在岩村町郷土館に展示保存されている。なお、岩村城主の信仰が篤かった瑞浪市桜堂薬師にも松平家乗・丹羽氏純・松平乗賢・松平乗保など、城主の奉納になる絵馬がある。

明智は岩村の南に隣接し、近世には旗本遠山家が領有していた。八王子神社は遠山氏の氏神であったことから、4代目伊次、5代目伊明や家臣が奉納した絵馬がある。そのうち7点は県指定文化財であるなどすぐれたものが多い。一部のものに剝落が目立っていたが、最近これに対して保存処理がなされようとしている。

近世、遠藤・井上・金森・青山と続く郡上藩の所領であった八幡町と大和村にはとりわけ絵馬が多い。八幡は郡上藩の城下町で、文化的には中世以来和歌や漢詩がさかんな所である。藩主にも遠藤常友・金森頼錦・青山幸哉など文人として傑出した人物が輩出した。彼らは八幡城の周辺にある小野八幡神社・岸剣神社・慈恩寺などに絵馬を奉納している。それらには専門絵師が描いたものがあり、美術的にすぐれている。なかでも遠藤常友は狩野派の画家、和田平左衛門に依頼し、松に鳩図・羅生門図・竹に虎図をそれぞれ上記の3社寺に、繫馬図を大和村牧の明建神社に揃って奉納した。なお、明建神社は常友の祖先にあたる東氏が守護神として尊崇していた神社である。奉納社寺

をここに選んだのはこうしたことと無関係ではなからう。

八幡地区でもう一つ注目されるのは戒仏と厚谷の二つの薬師堂である。二つはそれぞれ長良川の支流の最上流部に位置し、しかも山を挟んで対峙している。地元の伝承によれば厚谷薬師堂の建立に当たり、戒仏薬師堂のある小駄良川筋の神社の廃材を利用したが、その時そこに奉納されていた絵馬もあわせて運び込んだ、現在残っている絵馬はそれであるというのである。すると二つの薬師堂の絵馬は元は同じ谷筋にあったことになる。事実、これを裏付けるように両者には共通点が認められる。その一つは、形状が小型のものがほとんどであり、しかも図柄が花鳥・草木など大絵馬に入れてもよいものが多いということである。更に、奉納年代をみると江戸末期を中心に、江戸中期から明治初期のものである。こうした絵馬奉納は当地の文化と深くかかわっているとみてよいだろうが、それとともに民間信仰との関係も問題になる。安永2年(1773)の「郡上領留記」には領内の民間信仰的な祠堂についての記載がある。これからその数を拾うと58にのぼるが、このうち薬師堂が30と過半数を占め、次いで観音堂が17と多い。まだ確認はしていないが、当地にはほかにも数箇所の薬師堂・観音堂に絵馬があるとの情報がある。こうしたことから当時は薬師信仰を中心に観音信仰も広範に根強く生きていたことがうかがえる。そして現世利益を祈願する手段という絵馬の本質をあわせて考えるとこれらの民間信仰と絵馬奉納が結びついていたとみてよいのではなからうか。八幡は絵馬の宝庫である。

養老は近世期、船付・栗笠・烏江の三湊を控え、揖斐川の舟運を利用した物資の中継地として繁栄した所である。絵馬を確認したのは四つの神社である。押越八幡神社には約30点が残されているが、その年記をみると正徳6年(1716)が多い。風雨にさらされていたらしく画面が不鮮明のものが少なくない。しかしながら群馬図・群鳩図・七福神図は大型で保存状態も良く、他に類例が乏しいことから貴重である。また、高田の田代神社では4点を数えるが、いずれも紙貼りであることが特色である。

こうしてみると美濃における絵馬の宝庫はいずれも城下町か船町で、政治・経済的基盤を背景に地域文化の栄えた所である。前記の什物寄付物取調帳などによれば大垣の城下にも絵馬のある社寺がいくつかあったようだが、現在は明星輪寺(通称、赤坂虚空蔵)をはじめ国分寺や久瀬川神社などわずかにすぎない。このほか目立つ絵馬の所在地は御嵩町願興寺(通称、可児薬師)、加子母村大杉地藏堂である。前者の絵馬は寛永・明暦など時代的に古いものが多く、後者のそれは巴御前図・常盤御前図・直実敦盛図・仁木弾正図など芝居絵が多いことが特色である。

それでは図柄別に主な大絵馬をリストアップしてみたい。各絵馬については画題、寸法(縦×横単位cm)、所在地、奉納年代、画作者・奉納者等の順で記す。絵馬にある記載事項をそのまま掲載したものは「」で表示する。配列は図柄ごと、古いものから順に並べる。なお※印をつけた絵馬は特別展の図録に写真を収録したので、ここでとり上げる写真はそれ以外のものに限定した。

## 1 馬 図

絵馬の歴史からみても馬図は絵馬の代表である。それだけに各地の社寺に残る絵馬の中で最も一般的な図柄であり、点数も多い。年記のはっきりしたものでは土岐市妻木八幡神社に奉納された白黒一對の繫馬図が慶長14年(1609)と最も古い。図柄は繫馬図・牽馬図がほとんどであり、群馬図はわずかに養老町押越八幡神社で1点確認したにすぎず、猿駒曳図などは1点も見られなかった。絵馬に描かれた馬が夜ごと抜け出して付近の作物を食い荒らすという“抜け絵馬”伝説を持つものは3点あった。No.3・5・6がそれだが、注目してよい点はそれぞれがかかる神社に奉納された絵馬の中で最も古いものであること、及び狩野派などの専門絵師が描いていることである。

1 繫馬図(一對)\* 58×85 土岐市 妻木八幡神社 慶長14年(1609) 妻木左太郎頼久奉納

2	繫馬図		瑞浪市 桜堂薬師	慶長18年(1613)	松平家乗奉納
3	繫馬図		岩村町 八幡神社	慶長□年	松平乗寿奉納
4	繫馬図	38×52	御嵩町 願興寺	寛永18年(1641)	額縁欠失
5	牽馬図*	95×122	久瀬村 小津白山神社	寛文4年(1664)	「長屋忠助 琴湖」
6	繫馬図*	108×141	大和村 明建神社	寛文8年(1668)	和田平左衛門画 遠藤常友奉納
7	繫馬図		瑞浪市 桜堂薬師	寛文11年(1671)	丹羽氏純奉納
8	繫馬図	36×48	御嵩町 願興寺	延宝4年(1676)	
9	繫馬図*	93×137	明智町 八王子神社	延宝4年(1676)	大島盛正奉納
10	繫馬図	44×60	御嵩町 願興寺	元禄4年(1691)	額縁欠失
11	繫馬図		垂井町 南宮神社	元禄10年(1697)	
12	牽馬図		垂井町 南宮神社		
13	繫馬図	48×100	養老町 押越八幡神社	正徳6年(1716)	「渋谷氏正光」
14	牽馬図	49×100	養老町 押越八幡神社	正徳6年(1716)	「小野助次郎敬白」
15	繫馬図	52×99	養老町 押越八幡神社	正徳6年(1716)	「樋口彰助敬白」
16	繫馬図	133×183	岩村町 八幡神社	元文2年(1737)	狩野洞琳画 松平乗賢奉納
17	牽馬図	110×144	八幡町 小野八幡神社		金森頼綿奉納
18	牽馬図	50×88	養老町 押越八幡神社	明和4年(1767)	「願主 樋口義武 樋口幸吉」
19	牽馬図	100×143	岩村町 八幡神社	安永6年(1777)	} 狩野洞寿画 松平乗瀧奉納 } 一对
20	牽馬図	99×139	岩村町 武並神社	安永6年(1777)	
21	牽馬図*	99×142	岩村町 八幡神社	文化5年(1808)	} 狩野洞琳画 松平乗保奉納 } 一对
22	牽馬図*	100×143	岩村町 武並神社	文化5年(1808)	
23	繫馬図*	77×181	養老町 船付八幡神社	文化10年(1813)	「谷久治郎」
24	繫馬図	132×183	岩村町 八幡神社	文化11年(1814)	狩野洞琳画 松平乗保奉納
25	繫馬図*	73×99	八幡町 小野八幡神社	天保12年(1841)	「駒田正峯敬白」
26	繫馬図	101×150	養老町 田代神社	天保14年(1843)	「義信」襖形式
27	群馬図*	100×256	養老町 押越八幡神社	天保15年(1844)	「皆春館 中嶋華陽製之」
28	牽馬図	36×45	川辺町 太郎古天神社	文久3年(1863)	
29	繫馬図*	119×147	岩村町 武並神社	元治元年(1864)	} 式部郷董川法眼藤原中信画 } 松平乗命奉納 一对
30	繫馬図*	108×147	岩村町 八幡神社	元治元年(1864)	
31	繫馬図	61×96	岩村町 桜稻荷神社		「上林景命 渡辺典敬白」
32	牽馬図	74×114	八幡町 小野八幡神社		

## 2 武者絵

馬図と同様に点数が多い。羅生門図・川中島合戦図・弁慶牛若丸図・直実敦盛図・巳御前図などがあり、近世以降にさかんになった芝居の影響を受けているものも少なくない。奉納年代からみると御嵩町願興寺に古いものが集中している。

33	鶴退治図	43×61	御嵩町 願興寺	明暦4年(1658)	額縁欠失
34	合戦図	89×115	御嵩町 願興寺	明暦4年(1658)	
35	弁慶牛若丸図	36×45	御嵩町 願興寺		額縁欠失
36	武者絵		御嵩町 願興寺	寛文6年(1666)	
37	羅生門図	111×144	八幡町 岸剣神社	寛文8年(1668)	和田平左衛門画 遠藤常友奉納

38	武者絵		瑞浪市	桜堂薬師	寛文11年(1671)	
39	羅生門図*	115×171	明智町	八王子神社	正徳6年(1716)	「遠山伊清敬白」
40	川中島合戦図*98×107		養老町	押越八幡神社	正徳6年(1716)	「安氏敬白」額縁一部欠失
41	鶴退治図*	55×100	養老町	押越八幡神社	正徳6年(1716)	「樋口氏信(裏)丹次郎」
42	武者絵*	118×130	七宗町	観音寺	宝暦2年(1752)	「施主加納甚右衛門 雄書之」
43	合戦図	47×82	大垣市	明星輪寺	宝暦3年(1753)	「加納願主 高瀨氏」
44	武者絵	85×98	明智町	八王子神社	明和5年(1768)	山村太四郎重寛奉納
45	武者絵*	110×133	武儀町	日竜峯寺	寛政11年(1799)	「金山邑井尻 佐古幸太郎」
46	武者絵	52×78	大和村	明建神社	文化14年(1817)	「……鷲姓昌林保孝」
47	八幡太郎図	45×69	七宗町	観音寺	文政6年(1823)	「上麻生村葛屋 大矢助九郎…」
48	那須与一図	38×53	八百津町	久田見薬師堂	文政11年(1828)	「当村入野 願主直次郎」
49	鶴退治図	66×94	御嵩町	顔戸八幡神社	天保10年(1839)	
50	武者絵	65×91	御嵩町	顔戸八幡神社	天保10年(1839)	
51	猪退治図	96×144	八幡町	小野八幡神社	天保12年(1841)	
52	巴御前図*	87×123	加子母村	大杉地藏堂	嘉永4年(1851)	「飛羽御厩野村 敬白」
53	直実敦盛図*	88×134	加子母村	大杉地藏堂		「芳林好」
54	合戦図*	73×108	八幡町	小野八幡神社	嘉永6年(1853)	「嘯月画」
55	武者絵	84×95	八幡町	小野八幡神社		「嘯月画」
56	弁慶牛若丸図*92×136		久瀬村	小津白山神社	安政6年(1859)	「小津一色 藤井與一右衛門」
57	合戦図*	96×119	伊自良村	甘南美寺		「東下川手馬連中 川手住鶴鳴」
58	羅生門図	90×121	大和村	上古道白山神社	明治6年(1873)	「直之写」
59	武者絵	110×141	墨俣町	八幡神社	昭和20年(1945)	「朝風長谷川謹書」

### 3 歌仙絵

歌仙絵には三十六歌仙図・六歌仙図・百人一首図があるが、百人一首図は確認できなかつた。三十六歌仙図は下記の4箇所にあった。いずれも各1面に歌仙1人をあて、その肖像を下方に描き、上方に和歌1首を記してある。一方、六歌仙図は下記の2箇所で見つけた。前者とは異なり、いずれも1枚に6人の歌人を配している。谷汲村華厳寺のは比較的新しく、布地に紙絵貼付けである。

60	三十六歌仙図*46×32	八幡町	小野八幡神社	寛永16年(1639)	6面欠失	
61	三十六歌仙図	関市	小瀬八幡神社			
62	三十六歌仙図	岐阜市	加納天満神社			
63	三十六歌仙図	七宗町	神淵神社		剝落・破損が大きい	
64	六歌仙図*	45×79	養老町	金刀比羅神社	嘉永6年(1853)	「□溪管貞栄写 渋谷仁市郎」
65	六歌仙図		谷汲村	華厳寺	明治23年(1890)	布地に紙絵貼付け

### 4 芸能・娯楽図

東濃各地では江戸初期から農村歌舞伎がさかんに上演されていたが、これを裏付ける資料として芝居絵の絵馬があげられる。中でも加子母村大杉地藏堂と福岡町下野庚申堂にはすぐれたものが多い。前者にある仁木弾正図は横が2m近くもある大型のものだが、描法として遠近法をとり入れている点に特色がある。一方、後者の芝居絵は全面にわたり濃淡なく均一に彩色してある。民俗芸能・及び、相撲を描いた絵馬は瑞浪市桜堂薬師にしか発見できなかった。

66	相撲図		瑞浪市	桜堂薬師	寛文7年(1667)	薬師再建時の角力興行記念
----	-----	--	-----	------	------------	--------------

67	高砂図*	112×152	明智町	八王子神社	延宝4年(1676)	「願主遠山七之丞藤原氏伊明」
68	三番叟図*	103×160	大垣市	明星輪寺	貞享5年(1688)	
69	舞踊図		瑞浪市	桜堂薬師	享保3年(1718)	「尾州名護屋御業種所宮崎氏」
70	照手姫図*	156×138	大垣市	明星輪寺	安政6年(1777)	
71	唐子群遊図*	98×151	七宗町	神淵神社	嘉永元年(1848)	「平安保川寿貞大塚組氏子中」
72	碁太平記白石断図	53×68	福岡町	下野庚申堂	嘉永6年(1853)	「(裏)坂下村下握下嶋未年女」
73	常盤御前図*	88×134	加子母村	大杉地藏堂		「芳林」
74	熊谷陣屋図*	49×99	福岡町	下野庚申堂	安政5年(1858)	「(裏)当村願主 未之男」
75	芝居絵	47×64	福岡町	下野庚申堂		
76	花下遊楽図	96×189	大垣市	明星輪寺	万延2年(1861)	
77	仁木弾正図*	112×190	加子母村	大杉地藏堂	慶応元年(1865)	
78	勸進帳図	69×103	白鳥町	白山中居神社		紙型貼付け
79	常盤御前図	103×67	白鳥町	白山中居神社	明治22年(1889)	「酔月写」
80	赤穂浪士図	98×166	可児町	久々利八幡神社	明治32年(1899)	「一済画」

## 5 祈願・祭礼図

美濃には谷汲山華厳寺をはじめ広く信仰を集めている社寺が少なくない。また、伊勢神宮にも地理的に近いこともあって、巡礼や代参は行われていたと考えられる。しかしながら、この類に属す絵馬はわずかにすぎない。しかも年記のあるものはすべて明治で、新しいものばかりである。祭礼図は大垣市久瀬川神社の1点を確認しただけである。これには「奉献御宝前当所御歟大神御祭礼之略図」と銘記され、御輿や笠鉾、楽器などを持てまわるお旅の様子が描かれている。

81	拝み図*	29×51	大垣市	明星輪寺		
82	甘南美寺境内図*	40×57	伊自良村	甘南美寺	明治20年(1887)	腐骨疽平癒のお礼に奉納
83	甘南美寺境内図		伊自良村	甘南美寺		板の接合部分に剝落が目立つ
84	巡礼図*	106×182	八幡町	楊柳寺	明治26年(1893)	御詠歌講中の奉納になる
85	観音礼拝図*	150×91	谷汲村	華厳寺	明治31年(1898)	「名古屋市南馬喰町若山徳二郎」
86	観音御利益図*	78×102	武儀町	日竜峰寺	明治41年(1908)	手痛平癒のお礼に奉納
87	神幸図*	54×102	大垣市	久瀬川神社		「(裏)石橋舞連名 花笠手踊連名」

## 6 物語絵

ここには神話・伝説に題材をとったものや中国の故事に関するものなどをおさめた。垂井町南宮神社には大型の神功皇后三韓征伐図〔No.175〕があるが、板絵ではなく刺繍によるものなので変わった絵馬の項に入れ、ここには記載しなかった。

88	布袋図*	46×65	御嵩町	願興寺		
89	七福神園遊図*	84×105	岩村町	八幡神社	貞享元年(1684)	「丹羽長門守氏明」
90	浦島太郎図*	51×70	大垣市	明星輪寺	正徳5年(1715)	「源次郎」
91	黄石公張良図*	79×112	明智町	八王子神社	享保4年(1719)	「鈴木氏 □連」
92	小狐丸図*	80×102	久瀬村	小津白山神社	元文4年(1739)	「小津一色村高橋休七 □溪写」
93	橋上の竜図*	81×108	岩村町	桜稻荷神社	宝暦2年(1752)	岩村町衆が悪霊退散祈願に奉納
94	神功皇后図*	75×91	岩村町	八幡神社	明和8年(1771)	「田中氏上秀」
95	黄石公張良図	63×98	福岡町	下野庚申堂	文化5年(1808)	「雙峰散人筆」

96	山姥金太郎図	64×78	養老町	田代神社	文政11年(1828)	「菓雲 願主木邑□」襖形式
97	玄徳渡壇溪図	72×112	八幡町	戒仏薬師堂	文政12年(1829)	
98	七福神図	94×190	養老町	押越八幡神社		
99	天岩戸図	60×91	大垣市	久瀬川神社	文久2年(1862)	「田中貞政」
100	玄徳渡壇溪図	28×53	大和村	明建神社	明治11年(1878)	「義憲写 奉拝子年男」
101	神功皇后図	96×132	御嵩町	顔戸八幡神社	明治44年(1911)	「岩井信栄画」

## 7 学問・芸道図

江所時代も中期以降になると民衆の間にも学問・芸道が普及するが、それにともないその上達祈願をしたりする絵馬が現れた。立花図は2点を確認したが、武儀町日竜峯寺のものは南画の巨匠といわれた村瀬秋水の作になるだけあって見事である。算額は下記の5点が伝わっている。飛騨では高山市日枝神社・古川町気多若宮神社・宮村水無神社にあるので、県下で現存する算額は合わせて8点になる。算額には一般に幾可の問題が多く、画面には算題やその解答が文字や記号だけで描かれているものが多い。その点、上石津町湯葉神社の算額は問題が代数に関するものであり、しかもそれにかかわる具体的な図が描かれていることで珍しい。なお武道図絵馬も確認したが、いずれも木刀や弓矢などを板に貼り付けたものなので変わった絵馬の項に入れておいた。

102	立花図	77×55	伊自良村	甘南美寺	天明4年(1784)	
103	立花図*	137×91	武儀町	日竜峯寺	弘化2年(1845)	「秋水摹古」
104	算額	64×99	養老町	田代神社	天保12年(1841)	5問題「□□幽斎 谷□茂謹閲」
105	算額	55×154	八幡町	小野八幡神社	嘉永3年(1850)	4問題
106	算額*	53×105	上石津町	湯葉神社	江戸末期	1問題「願主細野 久保浅吉」
107	算額*	57×225	大垣市	明星輪寺	元治2年(1865)	12問題「関流外野郷 天極斎」
108	算額		武儀町	日竜峯寺	明治7年(1874)	11問題

## 8 生業・風俗図

この部類に入る絵馬は極めて少ない。特に生業図は福岡町榊山神社の四季農耕図1点を確認したにすぎない。注目されるのは谷汲山華厳寺の火消組の図である。3点あり、うち2点が出初めの図、他の1点が纏の図である。いずれも大型で、奉納した火消組の組員の名前を連ねてある。明治中期の火消組の風俗を知る上で参考になる。美濃市洲原神社の渡海船図には船の構造や人々の様子が描かれている。作者は不明だが、大和絵の筆致からして専門絵師の手になることは間違いあるまい。内陸国美濃にあっては船絵馬は他に例がなく、貴重なものである。

109	渡海船図*	138×173	美濃市	洲原神社	貞享2年(1685)	
110	美人図	46×29	川上村	星宮神社	元禄5年(1692)	「(裏)川上村 原彦三郎」
111	美人図*	64×43	大垣市	明星輪寺		
112	道中図*	39×68	八百津町	久田見薬師堂		「下田願主 長谷川小左衛門」
113	飢饉施粥図	63×124	養老町	愛宕神社	天保8年(1837)	} 一対 紙貼付け
114	飢饉施粥図	63×124	養老町	田代神社	天保8年(1837)	
115	大工手斧始め図	26×30	大垣市	明星輪寺		
116	四季農耕図*	64×99	福岡町	榊山神社	明治初期	稲作改良の教手と生徒が奉納
117	火消組出初め図*	134×225	谷汲村	華厳寺	明治21年(1888)	「き組消防連 竹里画」
118	火消組出初め図	149×173	谷汲村	華厳寺	明治24年(1891)	「揖斐消防組」
119	火消組纏図	113×186	谷汲村	華厳寺	大正7年(1918)	「大垣市大文字消防組」

## 9 近代戦役図

明治時代の兵制により、岐阜県は第三師団の管轄下に入った。その関係で第三師団図の絵馬が武儀町日竜峯寺をはじめ数箇所にもみられる。いずれもその本拠が置かれた名古屋城内から城門をくぐって兵士が分列行進をしていく様子が描かれている。こうした近代戦役図は他に日清戦争の勝利を記念して奉納された日竜峯寺の清国海城県大激戦図などがある。

120	第三師団図	75×106	福岡町 榊山神社			「糸魚川浜吉」
121	第三師団図	124×173	武儀町 日竜峯寺	明治19年(1886)		「名古屋鎮台有志中」
122	第三師団図*	55×90	伊自良村 甘南美寺	明治22年(1889)		「方県郡彦坂村十九連隊 第八中隊宮部捨吉」
123	第三師団図	49×69	福岡町 下野庚申堂	明治25年(1892)		「糸魚川浜吉」
124	陸海軍連合 大演習図*	73×97	伊自良村甘南美寺	明治25年(1892)		「方県郡栗野村 山田駒 吉 浦崎銀松」
125	第三師団図	165×240	武儀町 日竜峯寺	明治25年(1892)		「歩兵第拾九連隊 野戦 砲兵第三連隊」
126	日清戦争図*	128×213	武儀町 日竜峯寺	明治28年(1895)		「歩兵第十九連隊従軍有志中」
127	第三師団図		谷汲村 華嚴寺	明治39年(1906)		

## 10 花鳥・動物図

馬以外の動物図には社寺の使いとしての意味を持つものもあるが、一般には地域や奉納意図とかわりがないものが多い。また作者は専門絵師、奉納者は藩主や有力町人という図式が一般的である。画題は虎・鹿・狐・猿・鯉・鴛鴦・鳩・鷹など豊富である。大垣市国分寺の竹に虎図は縦2m・横3m以上にも及ぶ大型で、その画面には更に数枚の小絵馬が打ちつけられている。

128	鷹図(一对)	120×64	八幡町 小野八幡神社	慶安3年(1650)		
129	松に鳩図*	96×118	八幡町 小野八幡神社	寛文8年(1668)	和田平左衛門画	遠藤常友奉納
130	竹に虎図*	72×93	八幡町 慈恩寺	寛文8年(1668)	和田平左衛門画	遠藤常友奉納
131	樹上鷹図*	113×152	岩村町 八幡神社	寛文11年(1671)		「丹羽式部少輔」
132	群鹿図*	109×149	明智町 八王子神社	延宝4年(1676)		「願主遠山半九郎藤原氏伊次」
133	白鷹図*	45×74	明智町 八王子神社	貞享5年(1688)		「吉田家」
134	鳳凰図	54×95	養老町 押越八幡神社	正徳6年(1716)		「中嶋只之丞」
135	松に鷹図		瑞浪市 桜堂薬師	享保□年		松平乗賢奉納
136	日の出鶴図	133×183	岩村町 武並神社	元文2年(1737)		狩野洞琳画 松平乗賢奉納
137	竹に虎図	34×46	養老町 押越八幡神社	明和6年(1769)		「中嶋直治 敬白」
138	虎図	60×92	明智町 八王子神社	天明3年(1783)		
139	ミサキ狐図*	49×75	岩村町 桜稻荷神社	文化5年(1808)		狩野洞琳画 松平乗保奉納
140	日の出鶴図	132×181	岩村町 武並神社	文化11年(1814)		狩野洞琳画 松平乗保奉納
141	竹に虎図	200×330	大垣市 国分寺	文化11年(1814)		
142	松に鷹図		瑞浪市 桜堂薬師	文政□年		狩野洞琳画 松平乗保奉納
143	日の出鶴図	100×139	岩村町 八幡神社	天保3年(1832)	} 一对	上野元満画 松平乗美奉納
144	日の出鶴図	101×138	岩村町 武並神社	天保3年(1832)		
145	花鳥図*	44×62	八百津町久田見薬師堂	天保12年(1841)		「雪丘尚寿写」
146	日の出鶴図*	102×143	岩村町 八幡神社	弘化元年(1844)		加藤泰跡画 松平乗喬奉納

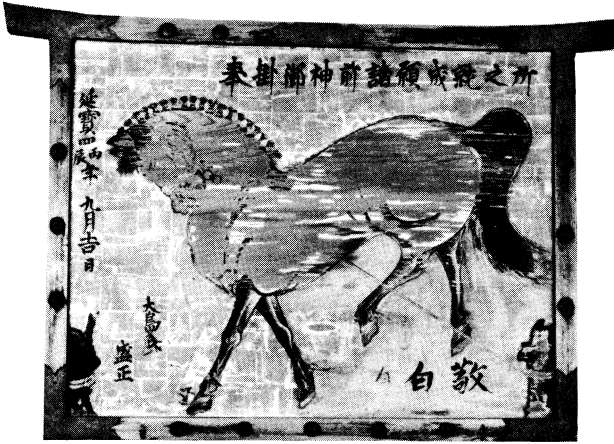


147	群鳩図	97×191	養老町	押越八幡神社		「白鳳城南 静逸秀敬絵」
148	鴛鴦図*	37×57	養老町	金刀比羅神社		「雀嶺写」
149	鯉図*	36×57	養老町	金刀比羅神社		「雀嶺写」
150	松に鷹図	51×83	八幡町	小野八幡神社	明治28年(1895)	
151	松に鳩図	97×121	墨俣町	八幡神社	昭和9年(1934)	「奉納 竹ヶ鼻町 大江こと」

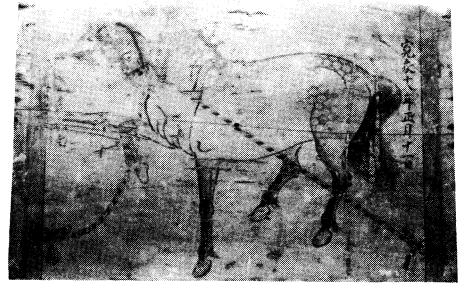
### 11 変わった絵馬

一般的な板絵の絵馬とは形態上異なるものとして、まげ・面・二股竹・木刀・弾丸など実物を貼り付けたもの、方形か定形のいわゆる基本形ではなく、扇面形・華鬘形など変わった形状のもの、材料として板を使用せず、漆喰・紙などで製作したもの、更に、木彫高浮彫や押絵・ガラス絵など技法が全く異なるものなどがある。剣は不動尊の持物だが、剣貼付額は不動堂に限らず広く社寺にみられる。注目されるのは垂井町南宮神社にある数多くの金物貼付額である。これは祭神金山彦命に対し、金物関係の職人や業者が商売繁盛や操業安全などを祈願して奉納したものである。奉納者は県内はもとより、全国各地に及んでいる。現在残っているものは戦後に奉納されたものだけだが、奉納は今もあとを絶たない。

152	舞踊図*	48×198	谷汲村	横蔵寺		高浮彫
153	俳句額*	21×43	大垣市	明星輪寺	貞享5年(1688)	扇面形 近藤如行筆
154	三十三間堂 通し矢貼付額*	91×50	大垣市	明星輪寺	元禄12年(1699)	「……岩手、竹中見代之助 仲時」
155	不明*	26×31	大垣市	明星輪寺	享保2年(1717)	華鬘形
156	矢貼付額	91×22	明智町	八王子神社	明和4年(1767)	
157	菅原伝授 手習鑑図*	45×100	養老町	押越八幡神社	天保15年(1844)	押絵「(裏)願主小野兵助」
158	的貼付額*	90×46	八幡町	小野八幡神社	嘉永6年(1853)	「秋 青山幸哉……」
159	塗師道具貼付額*	44×41	大垣市	明星輪寺	安政6年(1859)	「(裏)大垣本町 ゑし屋定平」
160	経巻貼付額*	35×132	福岡町	下野庚申堂		72巻貼付け
161	乗鶴職人図*	87×106	武儀町	日竜峯寺	明治7年(1874)	漆喰「左官組作」
162	馬図	56×66	坂下町	蔵田寺	明治36年(1903)	押絵「大門館蚕事部」
163	剣貼付額*	92×40	八幡町	小野八幡神社	明治36年(1903)	「山下金蔵」
164	銃弾貼付額	32×56	加子母村	番田八幡神社	明治39年(1906)	
165	円匙弾丸貼付額	76×152	墨俣町	墨俣神社		日露戦争の戦利品
166	蛇図	48×183	八百津町	丸根山弘法堂	大正8年(1919)	
167	馬図	66×99	八幡町	小那比熊野神社	大正9年(1920)	刺繍「永田梨乃」
168	繭額	96×102	八幡町	小那比熊野神社	昭和3年(1928)	昭和参年御大典記念
169	繭額*	90×100	武儀町	日竜峯寺	昭和5年(1930)	「富野連合養蚕組合記念」
170	繭額	84×96	関市	八神不動堂	昭和6年(1931)	
171	『心』*	31×42	八幡町	戒仏薬師堂		穴あき銭貼付 「小池亭」
172	二股竹貼付額	41×65	養老町	押越八幡神社		「(裏)押越村老番地 伊藤善七」
173	二股竹貼付額		大垣市	明星輪寺		
174	猿図	40×66	福岡町	下野庚申堂	布貼付け	布貼付け
175	神功皇后図	95×171	垂井町	南宮神社		刺繍



9 繫馬図 延宝4年 明智町 八王子神社蔵



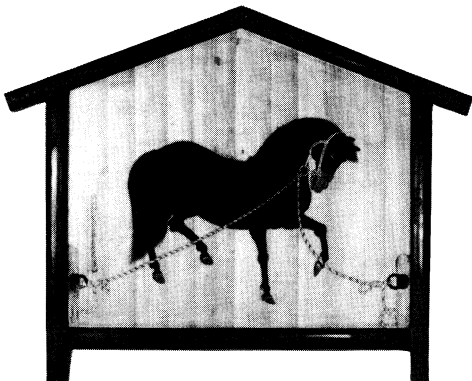
4 繫馬図 寛永18年 御嵩町 願興寺蔵



12 牽馬図 垂井町 南宮神社蔵



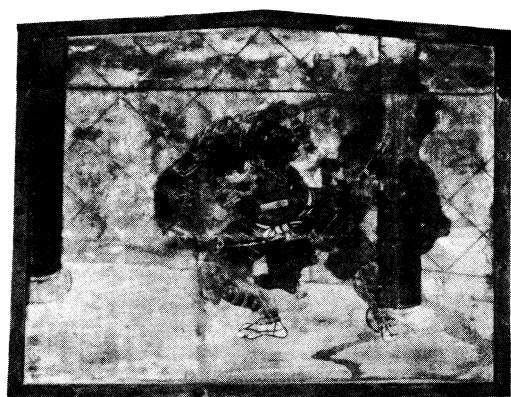
26 繫馬図 天保14年 養老町 田代神社蔵



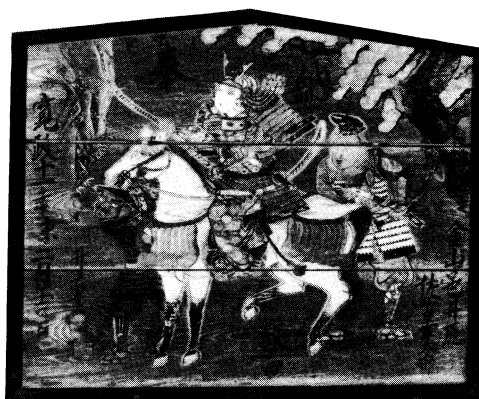
29 繫馬図 元治元年 岩村町 武並神社蔵



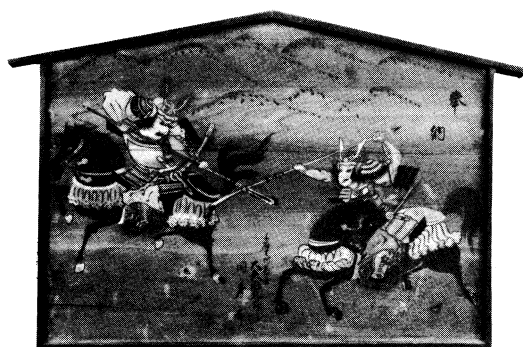
30 繫馬図 元治元年 岩村町 八幡神社蔵



37 羅生門図 寛文8年 八幡町 岸剣神社蔵



45 武者絵 寛政11年 武儀町 日竜峯寺蔵



47 八幡太郎図 文政6年 七宗町 観音寺蔵



48 那須与一図 文政11年 八百津町 久田見薬師堂蔵



72 碁太平記白石噺図 嘉永6年 福岡町  
下野庚申堂蔵



75 芝居絵 福岡町 下野庚申堂蔵



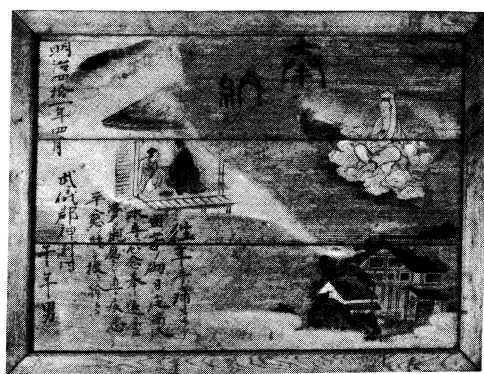
79 常盤御前図 明治22年  
白鳥町 白山中居神社蔵



85 観音礼拝図 明治31年  
谷汲村 華厳寺蔵



80 赤穂浪士図 明治32年 可児町 久々利八幡神社蔵



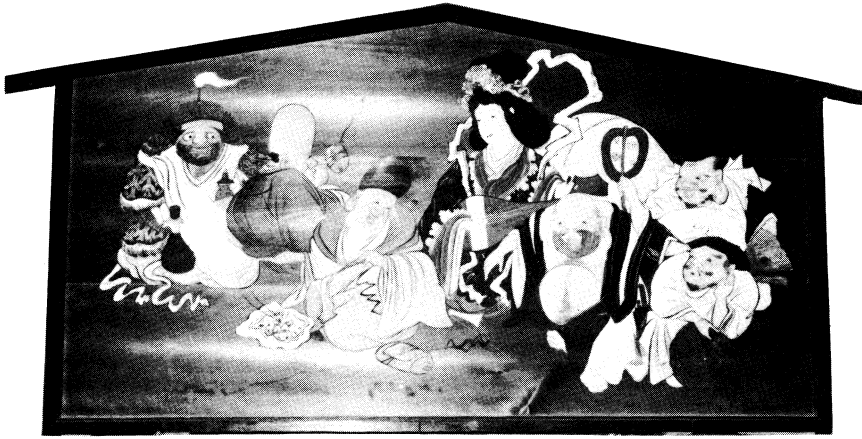
86 観音御利益図 明治41年 武儀町 日竜峯寺蔵



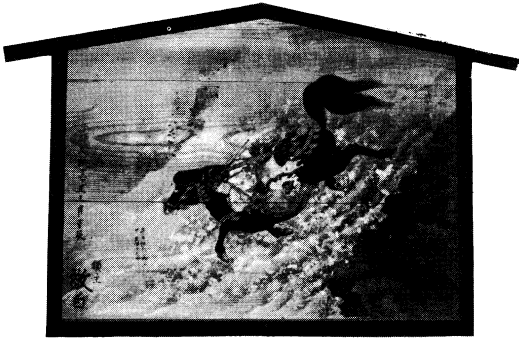
95 黄石公張良図 文化5年 福岡町 下野庚申堂蔵



96 山姥金太郎図 文政11年  
養老町 田代神社蔵



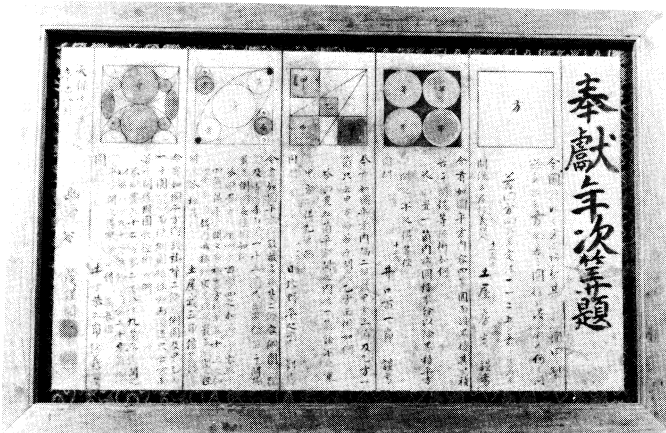
98 七福神図 養老町 押越八幡神社蔵



97 玄徳渡壇溪図 文政12年 八幡町 戒仏薬師堂蔵



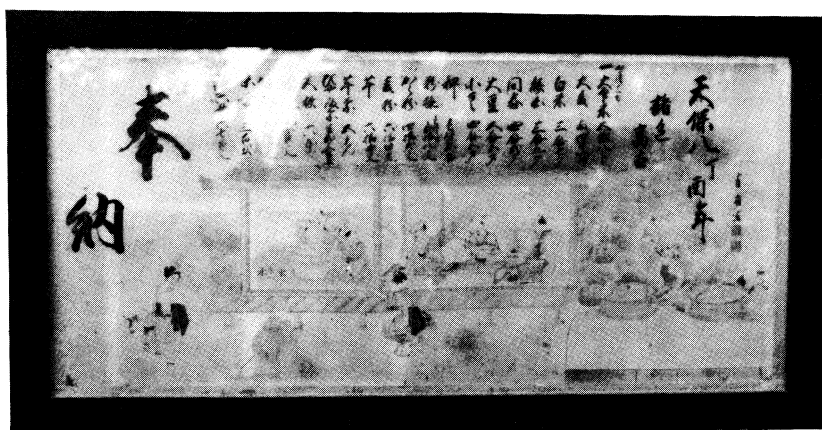
101 神功皇后図 明治44年 御嵩町  
顔戸八幡神社蔵



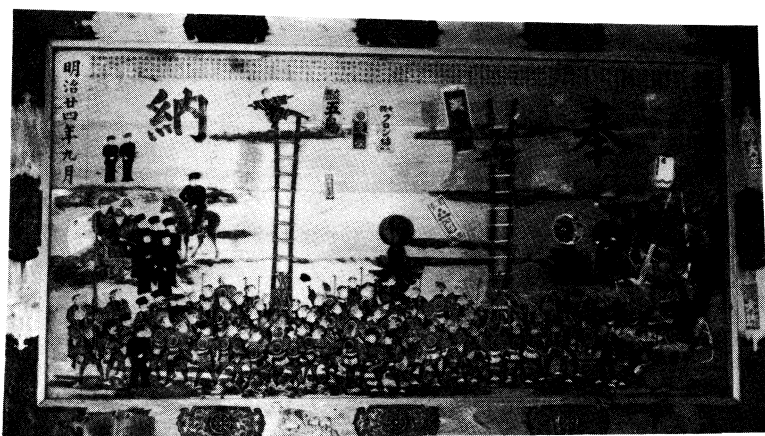
104 算額 天保12年 養老町 田代神社蔵



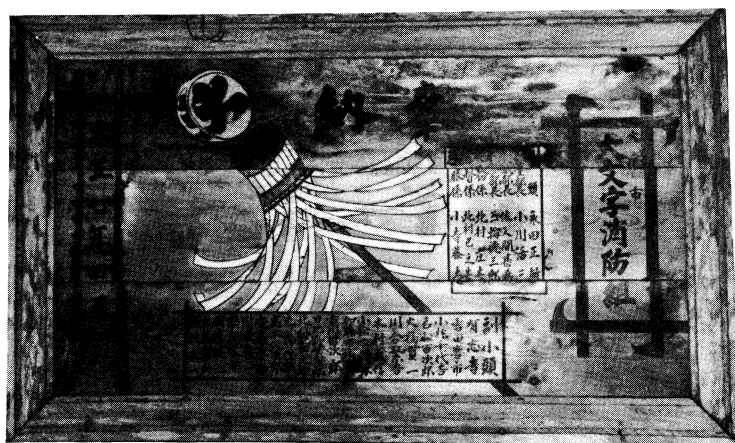
110 美人図 元禄5年  
川上村 星宮神社蔵



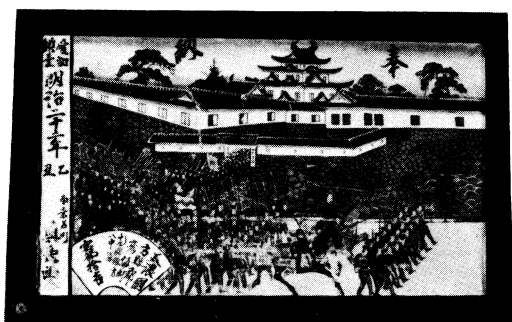
113 飢饉施粥図 天保8年 養老町 愛宕神社蔵



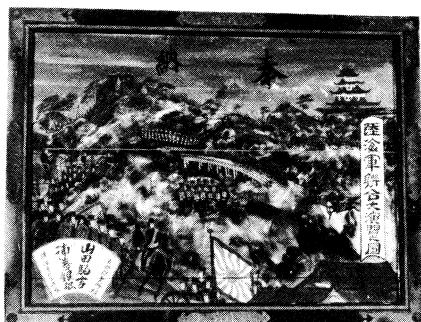
118 火消組出初め図 明治24年 谷汲村 華厳寺蔵



119 火消組纏図 大正7年 谷汲村 華厳寺蔵



122 第三師団図 明治22年 伊自良村  
甘南美寺蔵



124 陸海軍連合大演習図 明治25年  
伊自良村 甘南美寺蔵



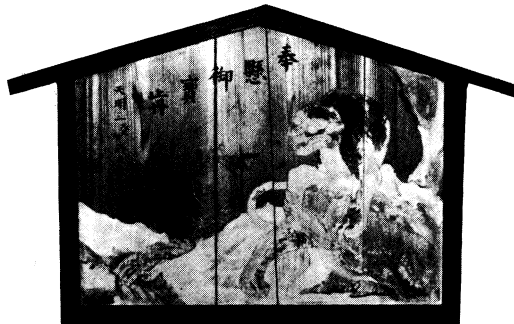
129 鷹図 慶安3年 八幡町  
小野八幡神社蔵



129 鷹図 慶安3年 八幡町  
小野八幡神社蔵



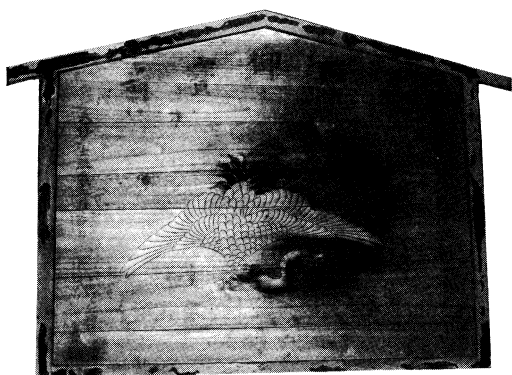
137 竹に虎図 明和6年 養老町  
押越八幡神社蔵



138 虎図 天明3年 明智町 八王子神社蔵



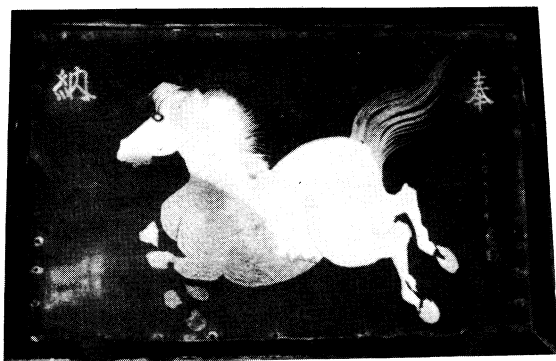
147 群鳩図 養老町 押越八幡神社蔵



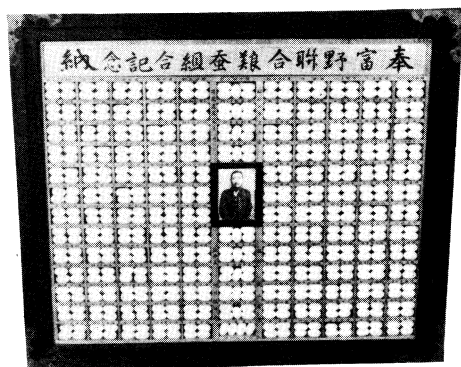
143 日の出鶴図 天保3年 岩村町 八幡神社蔵



144 日の出鶴図 天保3年 岩村町 武並神社蔵



167 馬図 (刺繍) 大正9年 八幡町 小那比熊野神社蔵



169 繭額 昭和5年 武儀町 日竜峯寺蔵